



2014

# 大学院講義要項

外国語学研究科

英米語学専攻

京都産業大学大学院

GRADUATE SCHOOL KYOTO SANGYO UNIVERSITY

■ LE001

科目名	: 英語教育教授法研究
担当者	: 大和 隆介
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 本講義では、これまで世界各国で提案・実践された主たる言語教授法を概観すると同時に、それらの教授法が、日本の英語教育の現場にどのように応用できるかを考える。この作業をもとにして、生徒が意欲を持ち主体的に英語学習に取り組むような授業の実践に向けて、授業の構成・指導法・教材を改善するための具体的な方策を考察する。
授業内容・方法	: 1. 教授法概観 : これまで世界各国で提案・実践されてきた主たる言語教授法の要点を日本の英語教育への応用可能性という観点から概観する。 2. 授業観察 : 小・中・高における授業を参観し、その構成・言語活動・教材等について分析・評価を行う。 3. 模擬授業実践 : 上記1、2の活動を踏まえて、受講者が文科省検定済み教科書を題材として模擬授業を行い、相互評価する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 教授法の歴史 第3回 伝統的教授法1 第4回 伝統的教授法2 第5回 メソッドの時代1 第6回 メソッドの時代2 第7回 コミュニケーション中心の教授法 第8回 コミュニケーション中心の教授法 第9回 ポスト・メソッドの時代 第10回 小学校授業の観察と評価 第11回 中学校授業の観察と評価 第12回 高校授業の観察と評価 第13回 模擬授業実践1 第14回 模擬授業実践2 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(30%)、プレゼンテーション(30%)、期末レポート(40%)
教材など	: <i>Approaches and Methods in Language Teaching</i> . Richards & T. Rodgers, (2001), J. Cambridge University Press.
備考	:

■ LE003

<b>科目名</b>	: 英語教育情報論研究
<b>担当者</b>	: ロブ トーマス ニール
<b>週時間数</b>	: 2
<b>単位数</b>	: 2
<b>配当年次</b>	: 1年
<b>開講期間</b>	: 春学期
<b>授業目標</b>	: 本コースは CALL (Computer Assisted Language Learning) の主要な特徴を概観することを目的とするものであり、特に CALL の背景理論、教室におけるモデル練習および学習者に対する使用に要求される技術的なノウハウに焦点を合わせる。
<b>授業内容・方法</b>	: 本コースは CALL (Computer Assisted Language Learning) の主要な特徴を概観することを目的とするものであり、特に CALL の背景理論、教室におけるモデル練習および学習者に対する使用に要求される技術的なノウハウに焦点を合わせる。
<b>授業計画</b>	: <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 What are IT &amp; CALL? The Language Lab tradition; Course Management Systems; Setting up your course</li> <li>第2回 Advantages &amp; disadvantages of using computers for language study; Creating quizzes; Create a quiz for the other students to take.</li> <li>第3回 CALL Literature; Internet search techniques; Take the other students' quizzes, search for a CALL article to read and report on.</li> <li>第4回 Learner styles; Sound recording &amp; editing; Record something and put it into your Moodle course</li> <li>第5回 Types of CALL activities; HTML-Basics, Links</li> <li>第6回 Appropriateness of CALL activities; HTML-Tables; Create a table with complex cell arrangements.</li> <li>第7回 Media of CALL activities; Youtube, Flickr and other Web 2.0 sites; Create a page on your Moodle course with links to article</li> <li>第8回 Graphics &amp; screenshots; Make a screenshot of some web site, add labels to it and put it up on your Moodle course</li> <li>第9回 Learner training; Ms Word --Basic functions &amp; good practice; Format an MS word business letter following the video instructions</li> <li>第10回 Effective use of materials;; MS Word - Exploring the menus Discovering new functions in MS Word by searching the menus</li> <li>第11回 Uploading files with FTP; Determine the topic for your final presentation</li> <li>第12回 Effective use of PowerPoint; Create a short PPT file illustrating some aspect of CALL or IT use. ; Bring an outline of your presentation topic.</li> <li>第13回 Computer Literacy; Excel &amp; Vlookup for merging data; Using Vlookup to copy data from File B to File A</li> <li>第14回 Computer Literacy; Excel &amp; Vlookup for merging data; Using Vlookup to copy data from File B to File A</li> <li>第15回 Presentation of reports (ppt)</li> </ul>
<b>評価方法・基準</b>	: 授業の参加度 70%、最終レポートとプレゼンテーション 30%の割合で評価する。
<b>教材など</b>	: ウェブで資料を配付
<b>備考</b>	:

■ LE004

科目名	: 英語教育学習理論研究
担当者	: 植松 茂男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 本講義では、英語教育学習理論の礎となる知識を紹介する。英語教育における今日的課題はさまざまであるが、それらは、これまでの外国語教育に関する理論や実践などに関する知見や応用言語学における理論に基づいて正しく解釈され、対応されるべきである。そのための基礎知識を提供する。
授業内容・方法	: 英語教育に関して、母語学習と外国語学習の違いをはじめとしたさまざまな基礎知識を得るため、最新のテキストを用いて議論を多用ながら理解を深め、自らが疑問に思っていることについて理論的に考えだすきっかけを作る。講義にはテキストの指定された範囲をよく読み込んで出席し、主体的な学びがはかどるように積極的な質問等を心がけること。課題も適宜指示する。
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 First language vs second language acquisition 1 第3回 First language vs second language acquisition 2 第4回 Language learning context (naturalistic) 第5回 Language learning context (instructed) 第6回 Contrastive analysis 第7回 Error analysis 第8回 Universal grammar 第9回 The monitor model 第10回 Information processing / cognitive approach 第11回 The socio-cultural approach 第12回 Historical and current perspectives on language teaching 1 第13回 Historical and current perspectives on language teaching 2 第14回 Classroom instructional issues 第15回 Student presentation
評価方法・基準	: 授業時の参加・発言 40%、プレゼンテーション 30%、課題 30%
教材など	: Hummel, K. (2014). <i>Introducing Second Language Acquisition: Perspectives and Practices</i> . Wiley Blackwell
備考	:

■ LE005

科目名	: 英語教育フォーカスオンフォーム研究
担当者	: 難波 和彦
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: フォーカスオンフォームを効果的に行うフレームワークとして、Task-based language teaching の理論と方法を学習し、実際の教育の場面に応用する力を身につける。
授業内容・方法	: 英語で書かれた文献を読んできて、学生によるプレゼン、それについてのディスカッションを行うことで、授業を進めていく。そこで学んだ理論・方法を用いて、実際に教える場面を想定した teaching plan を作っていく。
授業計画	: 第1回 Orientation 第2回 The basis of a task-based approach 第3回 Task-based sequences in the classroom 第4回 Tasks based on written texts 第5回 Tasks based on spoken texts 第6回 From topic to tasks: listing, sorting, and classifying 第7回 From Topic to tasks: matching and comparing 第8回 From topic to tasks: problem-solving, projects and storytelling 第9回 Language focus 第10回 Focus on form 第11回 The task-based classroom and the real world 第12回 Adapting and refining tasks 第13回 Designing a task-based syllabus 第14回 How to integrate TBT into coursebooks 第15回 Presentations by the students
評価方法・基準	: 平常点 30% パワーポイントによる発表(英語) 30% レポート(英語) 40%
教材など	: 指定図書: Willis, D. & Willis, J. (2007). <i>Doing Task-based Teaching</i> . Oxford: Oxford University Press. 授業中に配ります。
備考	:

■ LE006

科目名	: 英語統語論研究
担当者	: 高橋 眞理
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 英文の統語構造、派生過程、意味解釈、そしてそれらを決定する要因に関する生成文法理論の基本的仮説と研究成果を学ぶことにより、英語統語理論や普遍文法理論、またこれらの応用分野を研究するための基礎となる知識を身につけ、英語を教える場合には、文法事項を教える順序や教え方、例文の選び方に工夫・改良を加えられる能力を育てることを目標とする。
授業内容・方法	: 生成文法理論の仮説と分析の手法、文を構成する単語/形態素や文法素性の分類、英語の基本的「構文」の構造、派生過程、意味解釈について、順を追って講義し、徐々により複雑な英文を分析する練習を行う。中学校や高等学校で教えられる文法事項に関しては、それらの提示順序や、よりよい教え方について議論を行う。
授業計画	: 第1回 生成文法理論の基本的な仮説、方法論 第2回 生成文法理論の基本的な仮説、方法論 第3回 生成文法理論の基本的な仮説、方法論 第4回 統語範疇の分類、文法素性 第5回 構成素構造の調べ方、様々な句の構造 第6回 構成素構造の調べ方、様々な句の構造 第7回 構成素構造の調べ方、様々な句の構造 第8回 空範疇と統語構造 第9回 空範疇と統語構造 第10回 空範疇と統語構造 第11回 主要部移動 第12回 主要部移動 第13回 主要部移動 第14回 研究発表と研究報告のまとめ方の指導 第15回 研究発表と研究報告のまとめ方の指導
評価方法・基準	: 出席、授業参加、宿題：70% term paper：30%
教材など	: 教科書：Radford, Andrew (2009) <i>Analysing English Sentences: A Minimalist Approach</i> , Cambridge University Press.
備考	:

■ LE007

科目名	: 英語音声学・音韻論研究
担当者	: 川越 いつえ
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 本授業の終了時には、英語発音教育に必要な英語音声学音韻論の知識を獲得していること、何が英語学習者に必要な英語音声学音韻論の知識かを理解すること、リスニングと発音指導を音声学音韻論の知見から検討することが求められる。
授業内容・方法	: 本授業は Celce-Murcia, Brinton and Goodwin(2010)を教材として、英語の発音教育について考える。言語教育における発音教育の歴史、言語習得研究からみた英語発音教育、アメリカ英語の子音、母音体系、連続音声、強勢、リズムに関して英語教師が知っておくべき知識の整理と英語学習者の知るべき音声学的知識の理解、語学カリキュラムにおける発音教育のあり方、テストと評価、リスニング指導と綴り字指導を扱う。授業は日本語で行い、口頭発表と議論により内容理解を図る。
授業計画	: 第1回 Chapter 1 The History and Scope of Pronunciation Teaching 第2回 Chapter 2 Research on the Teaching and Acquisition of Pronunciation Skills 第3回 Chapter 3 The consonant system 第4回 Chapter 3 The consonant system 第5回 Chapter 4 The Vowel System 第6回 Chapter 4 The Vowel System 第7回 Chapter 5 Connected Speech, Stress, and Rhythm 第8回 Chapter 6 Prominence and Intonation in Discourse 第9回 Chapter 7 Pronunciation in the Language Curriculum 第10回 Chapter 8 Testing and Evaluation 第11回 Chapter 9 Techniques, Tools, and Technology 第12回 Chapter 10 Pronunciation and Listening 第13回 Chapter 12 The Sound System and Spelling 第14回 Report writing workshop 第15回 Report writing workshop
評価方法・基準	: 授業への参加度(50%) 学期末レポート(50%)
教材など	: Celce-Murcia, Brinton and Goodwin(2010) <i>Teaching Pronunciation: A course book and reference guide</i> , Cambridge.
備考	: 教材は川越が用意します。毎回10ページ以上を読むことが要求されます。

**■ LE009**

<b>科目名</b>	英語習得論研究
<b>担当者</b>	鈴木 孝明
<b>週時間数</b>	2
<b>単位数</b>	2
<b>配当年次</b>	1年
<b>開講期間</b>	春学期
<b>授業目標</b>	言語習得研究を科学的かつ実証的に捉え、自らのリサーチにつながるプロポーザルを作成することを目的とします。その過程で、観察や実験に基づく量的研究の基礎知識を学習します。
<b>授業内容・方法</b>	近年の英語習得研究（母語獲得・第二言語習得）の概観をつかみます。テキストやリサーチペーパーを読み、この分野でどのようなことが問題とされ、どのような研究がされているのかを学びます。
<b>授業計画</b>	第1回 言語学と心理学 第2回 母語獲得研究とは 第3回 生得性と領域固有性 第4回 母語としての英語の獲得(1) 第5回 母語としての英語の獲得(2) 第6回 母語としての英語の獲得(3) 第7回 第二言語習得とは 第8回 第二言語としての英語獲得(1) 第9回 第二言語としての英語獲得(2) 第10回 第二言語としての英語獲得(3) 第11回 リサーチの方法 第12回 仮説検証と実証的リサーチ 第13回 実験と観察 第14回 リサーチ・プロポーザル 第15回 データ分析の方法
<b>評価方法・基準</b>	出席、課題など(60%)、リサーチ・プロポーザル(40%)
<b>教材など</b>	資料を配付する。
<b>備考</b>	

■ LE010

科目名	: 英語教育教授法セミナー
担当者	: 大和 隆介
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 本講義では、教師主導から学習者中心の学習指導を目指して、種々の英語教授法における教師と学習者の役割を比較研究する。併せて自律的英語学習実現のための手段として言語学習ストラテジーの指導について講述する。
授業内容・方法	: 学習者中心の言語指導：コミュニケーション活動を重視した学習者中心の学習指導の要点とその問題点の整理を論文の講読を通して行う。 言語学習ストラテジー指導：自律的学習を実現する補助として言語学習ストラテジーに対する理解を深め、その実践指導の方法を考察する。
授業計画	: 第1回 ガイダンス 第2回 Paradigm shift and the language teaching profession. 第3回 Implications of a lexical view of language. 第4回 Second language acquisition research and task-based instruction. 第5回 Accuracy, fluency and conformity. 第6回 A flexible framework for task-based learning. 第7回 Consciousness-raising activities in the language classroom. 第8回 ARC: a descriptive model for classroom work on language. 第9回 言語学習と学習ストラテジー 第10回 学習ストラテジーの分類 第11回 学習ストラテジーに関する先行研究 第12回 海外での学習ストラテジーの指導法 第13回 学習ストラテジー指導の基本 第14回 学習ストラテジー指導の効果的指導 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(30%)、プレゼンテーション(30%)、期末レポート(40%)
教材など	: <i>Challenge and Change in Language Teaching.</i> J. Willis & D. Willis, (1996), Macmillan. 『言語学習と学習ストラテジー』 JACET 学習ストラテジー研究会 (2005) リーベル出版
備考	:

■ LE012

<b>科目名</b>	: 英語教育情報論セミナー
<b>担当者</b>	: ロブ トーマス ニール
<b>週時間数</b>	: 2
<b>単位数</b>	: 2
<b>配当年次</b>	: 1年
<b>開講期間</b>	: 秋学期
<b>授業目標</b>	: 教材開発及びテクノロジーの” Know How” を充実し、IT 関連の教育文献を探究することを目的とする。
<b>授業内容・方法</b>	: 現時点の IT および CALL 知識・スキルの欠けた部分を補い、全体的にさらに充実する。研究課題を考慮し、リサーチプランを作成する。データを集め、分析を行い、レポートを作成する。
<b>授業計画</b>	: 第1回 IT と CALL の主な分野について議論し、より深く研究したいトピックを決定する。 第2回 IT と CALL の主な分野について議論し、より深く研究したいトピックを決定する。 第3回 毎週の授業で IT スキル・IT の教育理論・文献についてのディスカッションを30分ずつ程度行う。 第4回 毎週の授業で IT スキル・IT の教育理論・文献についてのディスカッションを30分ずつ程度行う。 第5回 毎週の授業で IT スキル・IT の教育理論・文献についてのディスカッションを30分ずつ程度行う。 第6回 毎週の授業で IT スキル・IT の教育理論・文献についてのディスカッションを30分ずつ程度行う。 第7回 毎週の授業で IT スキル・IT の教育理論・文献についてのディスカッションを30分ずつ程度行う。 第8回 研究分野を決めて、リサーチプランを作成する。 第9回 研究分野を決めて、リサーチプランを作成する。 第10回 研究文献を集めながら、実験を実施、データを分析してから、レポートを作成する。 第11回 研究文献を集めながら、実験を実施、データを分析してから、レポートを作成する。 第12回 研究文献を集めながら、実験を実施、データを分析してから、レポートを作成する。 第13回 研究文献を集めながら、実験を実施、データを分析してから、レポートを作成する。 第14回 研究文献を集めながら、実験を実施、データを分析してから、レポートを作成する。 第15回 研究文献を集めながら、実験を実施、データを分析してから、レポートを作成する。
<b>評価方法・基準</b>	: 授業における参加度とレポートによる。
<b>教材など</b>	: 論文を指定。 参考書等: 随時紹介する。
<b>備考</b>	:

■ LE013

科目名	: 英語教育学習理論セミナー
担当者	: 植松 茂男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 本講義は「英語教育学習理論研究」に引き続き、英語教育における今日的課題をより良く理解するための理論や実践などを学ぶ。講義の後半三分の一は、自分なりの研究テーマを考え、具体的にするためのやり取りに使いたい。
授業内容・方法	: 「英語教育学習理論研究」と同一のテキストを用い、この分野における最新の知識をさらに増やすとともに議論を多用して理解を深め、自らの研究テーマを考えるきっかけにする。講義にはテキストの指定された範囲をよく読み込んで出席するのはもちろんのこと、主体的に学びがはかどるように積極的な質問等を心がけること。最終回はリサーチプランのプレゼンテーションを目指す。
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 Teaching approaches and instructional issues 1 第3回 Teaching approaches and instructional issues 2 第4回 Teaching approaches and instructional issues 3 第5回 Common processes and influences 1 第6回 Common processes and influences 2 第7回 L2 development across linguistic sub-areas 1 第8回 L2 development across linguistic sub-areas 2 第9回 Investigating learner language 1 第10回 Investigating learner language 2 第11回 Discussion questions 1 第12回 Discussion questions 2 第13回 Project ideas 1 第14回 Project ideas 2 第15回 Student presentation
評価方法・基準	: 授業時の参加・発言 40%、プレゼンテーション 30%、課題 30%
教材など	: Hummel, K. (2014). <i>Introducing Second Language Acquisition: Perspectives and Practices</i> . Wiley Blackwell
備考	:

**■ LE014**

<b>科目名</b>	: 英語教育フォーカスオンフォームセミナー
<b>担当者</b>	: 難波 和彦
<b>週時間数</b>	: 2
<b>単位数</b>	: 2
<b>配当年次</b>	: 1年
<b>開講期間</b>	: 秋学期
<b>授業目標</b>	: フォーカスオンフォームのツールとして、語彙文法、機能文法、タスク中心教授法について学び、実際の教材や教育の現場に応用して口からを身につける。
<b>授業内容・方法</b>	: 語彙文法、機能文法、タスク中心教授法をもとにした英語のテキストを読み、英語でのパワーポイントプレゼンテーションを学生が毎週行い、英語での論文を書く。
<b>授業計画</b>	: 第1回 Introduction 第2回 Grammar and lexis and learning 第3回 Developing teaching strategy 第4回 The grammar of structure 第5回 The grammar of orientation: the verb phrase 第6回 Orientation: organizing information 第7回 Lexical phrases and patterns 第8回 Class: the interlevel 第9回 The grammar of spoken English 第10回 Language learning and language development 第11回 Language description and learning processes 第12回 Task-based Language teaching 第13回 Formulaic language: the definition 第14回 Formulaic language: the functions 第15回 An integrated model
<b>評価方法・基準</b>	: 平常点 30% パワーポイントによる発表(英語) 30% レポート(英語) 40%
<b>教材など</b>	: 授業中に配ります。
<b>備考</b>	:

■ LE015

科目名	: 英語統語論セミナー
担当者	: 高橋 眞理
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 『英語統語論研究』で身につけた知識を出発点とし、英語の「主要構文」の統語構造と意味解釈を決定する原理についての理解を深め、英語を自分の力で分析する能力と、より効果的に英語を教えるために文法事項の提示順序や例文の選び方を工夫する能力を育てることを目標とする。
授業内容・方法	: 英語の「主要構文」の統語構造、派生過程、意味解釈について講義と議論を行う。英語を分析する力を育てるため、例文を集め/作り、文構造とその意味解釈を様々な方法でテストし、観察結果を一般化する練習に重点を置く。また、各受講者が選んだテーマの研究の進め方と研究成果のまとめ方について指導を行う。
授業計画	: 第1回 <i>wh</i> -移動 第2回 <i>wh</i> -移動 第3回 <i>wh</i> -移動 第4回 A-移動 第5回 A-移動 第6回 A-移動 第7回 agreement と格 第8回 agreement と格 第9回 agreement と格 第10回 split projections 第11回 split projections 第12回 split projections 第13回 研究発表と研究報告のまとめ方の指導 第14回 研究発表と研究報告のまとめ方の指導 第15回 研究発表と研究報告のまとめ方の指導
評価方法・基準	: 出席、授業参加、宿題 : 70% term paper : 30%
教材など	: 教科書 : Radford, Andrew (2009) <i>Analysing English Sentences: A Minimalist Approach</i> , Cambridge University Press.
備考	:

■ LE016

科目名	: 英語音声学・音韻論セミナー
担当者	: 川越 いつえ
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 本授業の終了時には英語の Connected speech の音声的特徴とその教育上の意義を理解し、指導方法について各自の見解をもつこと、さらに、自分が関心をもつ英語発音教育関係のテーマについて基礎的理解をもつことが求められる。
授業内容・方法	: 本授業では、まず Brown and Kondo-Brown(eds., 2006)にある英語の Connected speech に関するいくつかの論文を読み、Connected speech について理解し、その教育上の意義と指導方法を考える。次に、各自が関心をもつ英語発音教育関係の論文を読み、それについて議論の上、レポートを作成する。
授業計画	: 第1回 Introducing connected speech 第2回 Does connected speech instruction work? 第3回 How should connected speech be taught in English? 第4回 The effectiveness of teaching reduced forms for listening comprehension 第5回 How should connected speech be tested? 第6回 英語 connected speech についてのまとめ 第7回 英語発音教育関係の研究論文についての報告と議論 第8回 英語発音教育関係の研究論文についての報告と議論 第9回 英語発音教育関係の研究論文についての報告と議論 第10回 英語発音教育関係の研究論文についての報告と議論 第11回 英語発音教育関係の研究論文についての報告と議論 第12回 英語発音教育関係の研究論文についての報告と議論 第13回 英語発音教育関係の研究論文についての報告と議論 第14回 Report writing workshop 第15回 Report writing workshop
評価方法・基準	: 授業への参加度(50%) 学期末レポート(50%)
教材など	: Brown and Kondo-Brown(eds., 2006) <i>Perspectives on Teaching Connected Speech to Second Language Speakers</i> , NFLRC. Nation, I. S. P. and Jonathan Newton(2009) <i>Teaching ESL/EFL: Listening and Speaking</i> , Routledge.
備考	: 教材は川越が用意します。

■ LE018

科目名	: 英語習得論セミナー
担当者	: 鈴木 孝明
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 英語習得論研究で学んだ後、さらにその内容を深めたい場合、または広く心理言語学分野の研究を行いたい場合、母語獲得、第二言語習得、言語障害、言語処理分野から特定のテーマを選び、その研究を進めます。
授業内容・方法	: 教員が準備した概説や論文などを読むことから始めます。授業では、これに関して解説を行います。履修者の質問や議論を中心として内容を理解していきます。議論を発展させる形で、研究論文を選び、それらを読み進め、最終的には履修者が単独で実証的なリサーチを行うことを目的とします。
授業計画	: 第1回 基礎解説論文 第2回 基礎解説論文 第3回 論文1 第4回 論文1 第5回 論文2 第6回 論文2 第7回 論文3 第8回 論文3 第9回 実験演習（観察演習） 第10回 実験演習（観察演習） 第11回 実験演習（観察演習） 第12回 データ分析 第13回 データ分析 第14回 データ分析 第15回 プレゼンテーション
評価方法・基準	: 出席・アサインメント・プレゼンテーション(60%) 学期末レポート(40%)
教材など	: 教員が指定する論文
備考	:

■ LE019

科目名	: 英語教育教授法発展セミナー
担当者	: 大和 隆介
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 言語教育に関わる多くの知見は、意味中心の活動の中で言語形式にも必要な注意を喚起させる Focus on Form (FonF) を取り入れた指導が、効果的な言語習得につながることを示している。しかしながら、この FonF において、具体的にどのような方法で学習者の言語形式に対する理解を図るのかについては、十分な知見は未だ提供されていない。本講義では、このような状況に鑑み、FonF の枠組みの中で、重要文法項目に関する現実的かつ具体的な指導手順・方法を考察し試行する。
授業内容・方法	: 本講義は、まず文法指導に関する理論的枠組みを学習し、優れた先行事例を参照する。その上で、運用面で重要と思われる文法事項を取りあげ、その具体的な指導法を考案・試行し、その実用可能性を評価する。
授業計画	: 第1回 Guidance 第2回 The Place of Grammar Instruction in the Second/Foreign Language Curriculum. 第3回 Accuracy and Fluency Revisited. 第4回 Structure-Based Interactive Tasks for the EFL Grammar Learner. 第5回 Methodological Options in Grammar Teaching Materials. 第6回 Challenging Conceptions of Grammar. 第7回 The Dynamics of Language (Grammaring) 第8回 The Three Dimensions. 第9回 Selection of Target Structure 第10回 Model Teaching and Discussion 第11回 Model Teaching and Discussion 第12回 Model Teaching and Discussion 第13回 Model Teaching and Discussion 第14回 Model Teaching and Discussion 第15回 Summation
評価方法・基準	: 平常点(30%)、プレゼンテーション(30%)、期末レポート(40%)
教材など	: <i>New Perspectives on Grammar Teaching in Second Language Classrooms.</i> Hinkel, E. and S. Fotos, (2002). Lawrence Erlbaum Associates. <i>Teaching Language: From Grammar to Grammaring.</i> Larsen-Freeman, D. (2003). Thomson and Heinle.
備考	:

■ LE021

科目名	: 英語教育情報論発展セミナー
担当者	: ロブ トーマス ニール
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 教材開発及びテクノロジーの” Know How” を充実し、IT 関連の教育文献を探究することを目的とする。
授業内容・方法	: 現時点の IT および CALL 知識・スキルの欠けた部分を補い、全体的にさらに充実する。研究課題を考慮し、リサーチプランを作成する。データを集め、分析を行い、レポートを作成する。
授業計画	: 第1回 発音練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価1 第2回 発音練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価2 第3回 スピーキング練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価1 第4回 スピーキング練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価2 第5回 文法練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価1 第6回 文法練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価2 第7回 リスニング練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価1 第8回 リスニング練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価2 第9回 ライティング練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価1 第10回 ライティング練習の既存ソフトの調査、試験的利用とその評価2 第11回 SNS 用サイトの調査、試験的利用とその評価1 第12回 SNS 用サイトの調査、試験的利用とその評価2 第13回 標準試験の準備用ソフトの調査、試験的利用とその評価1 第14回 標準試験の準備用ソフトの調査、試験的利用とその評価2 第15回 Presentation of projects
評価方法・基準	: 授業の参加度 70%、最終レポートとプレゼンテーション 30%の割合で評価する。
教材など	: プリント及びウェブ上の資料
備考	:

■ LE022

科目名	: 英語教育学習理論発展セミナー
担当者	: 植松 茂男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 本講義は、英語教育学習理論の中でも特に一般の関心が高い「学習開始年齢」要因について、掘り下げて考察する。この分野における古典的及び最新の理論や実践などについて知見を深める。
授業内容・方法	: 言語習得における「臨界期説」について学び、古今の「言語習得の適齢期を奪われた」ケースについて知る。さらに臨界期説の「例外」とも言える事例に関して詳細を調べる。また後半からは、わが国でもはやされる「帰国子女」について、その実態を詳細に検討する。講義にはテキストの指定された範囲をよく読み込んで出席するのはもちろんのこと、主体的に学びがはかどるように積極的な質問等を心がけること。最終回にはリサーチプランのプレゼンテーションを目指す。
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 The critical period hypothesis 1 第3回 The critical period hypothesis 2 第4回 The critical period hypothesis 3 第5回 Abnormal instances: Children raised in isolation 1 第6回 Abnormal instances: Children raised in isolation 2 第7回 Exceptional cases 1 第8回 Exceptional cases 2 第9回 The cases of Japanese returnee students 1 第10回 The cases of Japanese returnee students 2 第11回 The cases of Japanese returnee students 3 第12回 The cases of Japanese returnee students 4 第13回 The cases of Japanese returnee students 5 第14回 Discussion questions 第15回 Student presentation
評価方法・基準	: 授業時の参加・発言 40%、プレゼンテーション 30%、課題 30%
教材など	: Hummel, K. (2014). <i>Introducing Second Language Acquisition: Perspectives and Practices</i> . Wiley Blackwell 植松茂男(2006)「英語学習と臨界期」松柏社
備考	:

■ LE023

科目名	: 英語教育フォーカスオンフォーム発展セミナー
担当者	: 難波 和彦
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: フォーカスオンフォームのツールとして、Systemic Functional Grammar(選択体系機能文法)を体系的に学び、英語教育に効果的に取り入れる方法を探る。
授業内容・方法	: Systemic Functional Grammar についての文献(英語)を読み、学生がパワーポイントにプレゼンを行い、レポート(英語)を書くことで、理解を深める。
授業計画	: 第1回 Orientation 第2回 Introduction to functional grammatical analysis 第3回 The units of language analysis 第4回 The grammar of thing: the nominal group 第5回 Representing experience (1): analyzing experiential meaning 第6回 Representing experience (2): processes, participants and circumstances 第7回 Representing experience (3): functional, structural view of the experiential meaning 第8回 Orienting language (1) : subject, finite, modality 第9回 Orienting language (2) : an interpersonal view of the clause 第10回 Organizing language(1) : a textual view of the clause 第11回 Organizing language(2) : thematic constructions 第12回 From text to clause 第13回 Guidelines for grammatical analysis 第14回 Interpreting the analysis 第15回 The Genre- Grammar connection
評価方法・基準	: 平常点 30% 発表(英語) 30% レポート(英語) 40%
教材など	: 授業中に配ります。
備考	:

■ LE024

科目名	: 英語統語論発展セミナー
担当者	: 高橋 眞理
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 『英語統語論研究』と『英語統語論セミナー』で身につけた知識を土台とし、英文の統語構造と意味解釈を決定する原理についての理解をさらに深め、英語統語理論や普遍文法理論の研究論文を批判的に読む能力と、英語の統語現象について様々な方法でデータを収集し、新しい分析法を提案できる能力を育てることを目標とする。
授業内容・方法	: 1) 動詞(句)の「項構造」と <i>Aktionsart</i> 、2) 節の「名詞化」と動名詞節、3) 束縛理論、4) 様々な種類の従属節と関連構文、5) 省略/代用現象、の中から、受講者が希望するテーマを最大2つ取り上げ、それぞれのテーマについて過去の重要な論文を詳読し、提示された理論について分析的議論を行う。また、各受講者が選んだテーマの研究の進め方と研究成果のまとめ方について指導を行う。
授業計画	: 第1回 各トピックの概説と授業テーマ決定 第2回 各トピックの概説と授業テーマ決定 第3回 選ばれたテーマに関する論文の詳読と議論、論点の整理 第4回 選ばれたテーマに関する論文の詳読と議論、論点の整理 第5回 選ばれたテーマに関する論文の詳読と議論、論点の整理 第6回 各受講者の研究テーマの絞り込み・具体化、データ収集/調査方法の決定 第7回 各受講者の研究テーマの絞り込み・具体化、データ収集/調査方法の決定 第8回 各受講者の研究テーマの絞り込み・具体化、データ収集/調査方法の決定 第9回 データ収集/調査実施、収集されたデータ/調査結果の分析 第10回 データ収集/調査実施、収集されたデータ/調査結果の分析 第11回 データ収集/調査実施、収集されたデータ/調査結果の分析 第12回 研究のまとめ方の指導 第13回 研究のまとめ方の指導 第14回 研究成果口頭発表 第15回 総括
評価方法・基準	: 出席、授業参加、課題 : 50% term paper : 50%
教材など	: 参考書 : Radford, Andrew (2009) <i>Analysing English Sentences: A Minimalist Approach</i> , Cambridge University Press.
備考	:

■ LE025

科目名	: 英語音声学・音韻論発展セミナー
担当者	: 川越 いつえ
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 本授業は1年次に英語音声学・音韻論研究および英語音声学・音韻論セミナーを履修した上で、さらに同じ学問領域を継続して探求し、自分の研究を完成したい場合に履修するものである。そこで、本授業の目標は、日英語対照音声学・音韻論の中の各自の研究テーマについて、研究論文を批判的に読み、自分の研究目的、方法を設定し、データ収集をして、結論を得ることである。
授業内容・方法	: 授業は毎回発表と議論の形式をとる。各自のテーマについての現在の研究のまとめを行い、英語教育における教育方策の具体的な提示をすることが求められる。自分の提案する方策の有効性についてのデータ収集をする必要がある。
授業計画	: 第1回 本授業への導入 第2回 英語のテーマに関する研究論文についての報告と議論 第3回 英語のテーマに関する研究論文についての報告と議論 第4回 研究テーマの決定と研究方法についての議論 第5回 研究テーマの決定と研究方法についての議論 第6回 データ収集とデータ分析 第7回 データ収集とデータ分析 第8回 データ収集とデータ分析 第9回 データ収集とデータ分析 第10回 各自のテーマについての中間報告 第11回 各自のテーマについての中間報告 第12回 各自のテーマについての中間報告 第13回 各自のテーマについての中間報告 第14回 各自のテーマについての中間報告 第15回 各自のテーマについての中間報告
評価方法・基準	: 平常点(20%) 授業への参加度(80%)
教材など	: 適宜用意する
備考	:

**■ LE027**

<b>科目名</b>	: 英語習得論発展セミナー
<b>担当者</b>	: 鈴木 孝明
<b>週時間数</b>	: 2
<b>単位数</b>	: 2
<b>配当年次</b>	: 2年
<b>開講期間</b>	: 春学期
<b>授業目標</b>	: これまで進めてきた心理言語学分野の研究をさらに深めることを目的とします。
<b>授業内容・方法</b>	: 関連論文のディスカッションを通して、リサーチプランを作成します。それに基づいて、実験または観察研究を行い、最終的に論文にまとめます。
<b>授業計画</b>	: 第1回 関連論文とリサーチプランについて1 第2回 関連論文とリサーチプランについて2 第3回 関連論文とリサーチプランについて3 第4回 関連論文とリサーチプランについて4 第5回 リサーチについて1 第6回 リサーチについて2 第7回 データ分析について1 第8回 データ分析について2 第9回 論文執筆について1 第10回 論文執筆について2 第11回 論文執筆について3 第12回 アブストラクト作成と口頭発表について1 第13回 アブストラクト作成と口頭発表について2 第14回 論文執筆について4 第15回 論文執筆について5
<b>評価方法・基準</b>	: 授業参加とアサインメント(50%)論文(50%)
<b>教材など</b>	: 教員が指定する論文
<b>備考</b>	:

■ LE028

科目名	: 英米文学研究
担当者	: 鈴木 雅恵
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: この授業では、英語で作品や評論を読むことによって、21世紀という時代に英語・英米文学を学ぶ意義について問いなおしながら、読解力や朗読の力を高め、文学テキストや文化現象を分析する力をつけることを目的とする。
授業内容・方法	: 今回は特に英米の児童文学・少年少女文学の歴史と日本への移入焦点を当てる。履修者は原作の背景を学ぶだけではなく、将来教材として扱うことを前提に、作品の朗読術を学ぶことも要求される。We will focus on the history of children's literature and juvenile literature and learn how to make use of them in class.
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 Nursery Rhymes 第3回 Mythology and Legends 第4回 Irish Fairy Tales 第5回 The Tales of Shakespeare (1) 第6回 The Tales of Shakespeare (2) 第7回 The Tales of Shakespeare (3) 第8回 The Tales of Shakespeare (4) 第9回 Beatrice Potter and A. A. Milne 第10回 Children's Literature and Drama 第11回 Lewis Carroll and the Nonsense Poets 第12回 American Juvenile Literature (1) 第13回 American Juvenile Literature (2) 第14回 Review 第15回 Test
評価方法・基準	: 平常点(30%)、レポート(30%)及びテスト(40%)により評価する。
教材など	: 授業初日に指示する。
備考	:

■ LE029

科目名	: 英米文学セミナー
担当者	: 鈴木 雅恵
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: この授業では、今まで学んできた英語・英米文学の知識を駆使しながら、英語論文などを解読する力を高め、映像もテキストとして分析し、教育に生かす力を養うことを目的とする。また、英語の劇的朗読についてもとりあげ、英語で議論することを目標とする。
授業内容・方法	: このクラスでは、映像化された劇作品（特にシェイクスピア）や児童文学を取り上げ、映像テキストと原作テキストを比較した上で、英文論文の読解や分析をおこなう。英語での議論や、英文レポートの提出が要求される。
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 <i>A Midsummer Night's Dream</i> on stage and in films (1) 第3回 <i>A Midsummer Night's Dream</i> on stage and in films (2) 第4回 <i>A Midsummer Night's Dream</i> on stage and in films (3) 第5回 <i>A Midsummer Night's Dream</i> on stage and in films (4) 第6回 <i>Macbeth</i> on stage and in films (1) 第7回 <i>Macbeth</i> on stage and in films (2) 第8回 <i>Macbeth</i> on stage and in films (3) 第9回 <i>Othello</i> on stage and in films (1) 第10回 <i>Othello</i> on stage and in films (2) 第11回 <i>Othello</i> on stage and in films (3) 第12回 Children's Literature in films (1) 第13回 Children's Literature in films (2) 第14回 Discussion 第15回 Review and Test
評価方法・基準	: 平常点(30%)、レポート(30%)及びテスト(40%)により評価する。
教材など	: Huang, Alexander and Ross, Charles (eds.) <i>Shakespeare in Hollywood, Asian and Cyberspace</i> . Purdue University, 2009, etc.
備考	:

**■ LE030**

<b>科目名</b>	: 英米文化研究
<b>担当者</b>	: 江尻 雅一
<b>週時間数</b>	: 2
<b>単位数</b>	: 2
<b>配当年次</b>	: 1年
<b>開講期間</b>	: 春学期
<b>授業目標</b>	: 本講座は、英米で注目をあびる比較的新しい学問体系である文化景観学 (Cultural Landscape Studies) の理論と方法論を理解し、アメリカ文化研究の枠組みでひとつの景観 (ランドスケープ) から文化を読み取ることを目的とする。
<b>授業内容・方法</b>	: この講座では、まず初めに、この分野で著名な2人の学者、W. G. Hoskins と J. B. Jackson のアプローチに着目して彼らの方法論を分析し、「景観を読む」基礎を養う。次に、アメリカ合衆国の象徴的なランドスケープを具体的にとりあげ、ひとつの景観が創造され、また、変化していく歴史的なプロセスを、政治的、経済的、社会的要因の分析によって解明する。それとともに、ランドスケープに内在する建築家や設計者の意図および人々はそのランドスケープに抱くイメージを把握し、文化景観の謎をひも解く。これは、景観から読み取るアメリカ文化の理解である。
<b>授業計画</b>	: 第1回 文化景観学の説明 第2回 文化景観学の方法論の説明 第3回 W. G. Hoskins の歴史学的アプローチと J. B. Jackson のコード分析を学ぶ 第4回 The Interpretation of Ordinary Landscapes を読む (pp. 1-7) 第5回 The Interpretation of Ordinary Landscapes を読む (pp. 11-15) 第6回 The Interpretation of Ordinary Landscapes を読む (pp. 15-20) 第7回 The Interpretation of Ordinary Landscapes を読む (pp. 22-25) 第8回 The Interpretation of Ordinary Landscapes を読む (pp. 25-27) 第9回 セントラル・パークの映像分析 第10回 セントラル・パークの文献を読む 第11回 ヤンキー・スタジアムの映像分析 第12回 ヤンキー・スタジアムの分析 第13回 ワールド・トレード・センターの映像分析 第14回 ワールド・トレード・センターの分析 第15回 文化景観研究の意義を考える
<b>評価方法・基準</b>	: 毎回の積極的な参加(30%)と期末レポート(70%)を合わせて総合的に評価する。
<b>教材など</b>	: 適宜プリントを配付し、参考資料を紹介する。
<b>備考</b>	: Reading Assignment の準備を十分にすること。

■ LE031

科目名	: 英米文化セミナー
担当者	: 江尻 雅一
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 本講座は、英米文化研究で学んだ文化景観学の方法を実践に移すことを目的とする。故に、受講者が主体となって、アメリカの景観の分析およびその発表が行われる。景観分析は、実際に研究対象となる景観のフィールド・ワークをすることで、より意義深いものとなる。しかし、ここでは、景観の映像と文献（英語）を読み解くことが中心となる。
授業内容・方法	: 受講者は、景観を通してアメリカ文化を分析する手順を学ぶ。題材は、記念碑（メモリアル）である。メモリアルは、ある歴史上の出来事を記憶にとどめ、後世にその意義を伝える目的で構築される。そこには、人間の価値観、思想、信条、また、感情までも刻み込まれている。本講座では、2つの戦争記念碑、太平洋戦争を記念する Arizona Memorial とベトナム戦争を記念する Vietnam Veteran's Memorial, に焦点を合わせ、それぞれの記念碑が訴えるもの、アメリカ文化の側面を分析する。英語で書かれた文献および視聴覚教材を利用して2つの景観を比較検討することで、アメリカ人の戦争観を解明する。次に、受講生が自ら選んだ景観を調査して分析し、発表をする。
授業計画	: 第1回 文化景観学の復習 第2回 記念碑とは何か 第3回 The Shadowed Ground を読む (pp. 1-7) 第4回 The Shadowed Ground を読む (pp. 7-16) 第5回 The Shadowed Ground を読む (pp. 16-22) 第6回 The Shadowed Ground を読む (pp. 23-28) 第7回 The Shadowed Ground を読む (pp. 28-35) 第8回 アリゾナ・メモリアルの分析 第9回 アリゾナ・メモリアルの分析 第10回 ベトナム・ベテランズ・メモリアルの分析 第11回 ベトナム・ベテランズ・メモリアルの分析 第12回 個人発表 第13回 個人発表 第14回 個人発表 第15回 記念碑設立の意義を考える
評価方法・基準	: 毎回の積極的な参加(20%)、発表(30%)と期末レポート(50%)を合わせて総合的に評価する。
教材など	: 適宜プリントを配付し、参考資料を紹介する。
備考	: 十分な Library Research に基づいた発表をすること。

■ LE032

<b>科目名</b>	英語教育海外フィールド・リサーチ	
<b>担当者</b>	難波 和彦	
<b>週時間数</b>	集中	
<b>単位数</b>	2	
<b>配当年次</b>	1年	
<b>開講期間</b>	集中	
<b>授業目標</b>	この海外演習は、将来、英語を教える職業に就くことを志望している学生に対して、英語運用能力を高めるだけでなく、コミュニケーション中心の言語理論及び教授法の講義、さらには英語圏での直接的異文化体験を総合的に体験・学習する機会を集中的に提供するものです。同様の志望を持つ学生が、適切な事前・事後指導を受けながら、このような学習機会を得るならば、共通の目的達成に向けた強力な連帯感が生まれ、必要な知識・技能の習得が大いに促進されると期待されます。	
<b>授業内容・方法</b>	この授業の中心は、2月末にオーストラリアの Swinburne 大学で行われる 3 週間の集中的研修です。この研修は、次の 5 つの柱から成り立っています: 1) 英語運用能力を高めるトレーニング、2) 英語教授法に関する授業、3) 現地の ESL 授業参観、4) 研究テーマに関するデータ/資料収集、5) ホームステイによる異文化体験。 具体的な研究テーマを持って研修に臨み、体験を内容のあるレポートとしてまとめられるよう、事前指導と事後指導を行います。	
<b>授業計画</b>	第 1 回	事前指導-1:オリエンテーション/ガイダンス 今後の予定、準備、心構えについて
	第 2 回	事前指導-2:英語教員に必要な資質・能力についての講義とディスカッション
	第 3 回	事前指導-3:研究テーマ決定、合宿をして、現地での生活の疑似体験をしながら、team building について学ぶ
	第 4 回	Swinburne 大学での集中研修:英語教授法の導入
	第 5 回	Swinburne 大学での集中研修:英語教授法の基礎・理論
	第 6 回	Swinburne 大学での集中研修:英語教授法の応用・実践
	第 7 回	Swinburne 大学での集中研修:現地の ESL 授業参観
	第 8 回	Swinburne 大学での集中研修:英語リスニング力を高めるトレーニング
	第 9 回	Swinburne 大学での集中研修:英語スピーキング能力を高めるトレーニング
	第 10 回	Swinburne 大学での集中研修:英語語彙力を高めるトレーニング
	第 11 回	Swinburne 大学での集中研修:e-learning を利用した英語運用能力のトレーニング
	第 12 回	Swinburne 大学での集中研修:英語リーディング能力を高めるトレーニング
	第 13 回	Swinburne 大学での集中研修:英語文法力とライティング力を高めるトレーニング
	第 14 回	事後指導-1:Swinburne 大学での研修を振り返り、収集したデータ/資料をレポートにまとめる
	第 15 回	事後指導-2:研究成果発表会
<b>評価方法・基準</b>	事前・事後指導(20%)、Swinburne 大学での授業評価(50%)、研修成果報告書(30%)	
<b>教材など</b>	各受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。	
<b>備考</b>	参加希望者が少ない場合、またはその他の事情で休講になる場合がある。	

■ LE033

<b>科目名</b>	英語教育国内フィールド・リサーチ
<b>担当者</b>	植松 茂男
<b>週時間数</b>	集中
<b>単位数</b>	2
<b>配当年次</b>	1年
<b>開講期間</b>	集中
<b>授業目標</b>	このコースでは、受講生が自らの研究課題遂行にむけて、実践的英語教授法に関わる諸問題を整理・分析すると同時に、修士論文あるいは課題研究報告書執筆に必要となる基礎的データの収集を図る。
<b>授業内容・方法</b>	<p>上記の目的を果たすために、受講生は大学院研究指導教員及び中学・高校の教員の指導の下に、かつて学生として学んできた中学校・高等学校において、明確な課題意識を持って授業観察を行う。また、その観察・分析結果を報告書としてまとめていく。</p> <p>このコースは、3つの要素から構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前指導（第1～3回） 大学院担当教員の指導の下、授業観察に臨む意義を確認し焦点を当てる言語習得あるいは言語教授法に関する課題を明確にすると同時に方法論を考える。</li> <li>2. 実習校での授業観察（第4～13回） 実習校において、集中観察（5日間：10月）と継続観察（3ヶ月で5日間）を行う。集中観察においては、研究対象課題に関する多様なデータを収集し、継続観察においては更に焦点を絞り込んだ授業観察を行う。</li> <li>3. 事後指導（第14～15回） 観察により得られたデータを整理・分析し報告書としてまとめる手筈を整える。</li> </ol>
<b>授業計画</b>	<p>第1回 事前指導1</p> <p>第2回 事前指導2</p> <p>第3回 事前指導3</p> <p>第4回 実習校での授業観察</p> <p>第5回 実習校での授業観察</p> <p>第6回 実習校での授業観察</p> <p>第7回 実習校での授業観察</p> <p>第8回 実習校での授業観察</p> <p>第9回 実習校での授業観察</p> <p>第10回 実習校での授業観察</p> <p>第11回 実習校での授業観察</p> <p>第12回 実習校での授業観察</p> <p>第13回 実習校での授業観察</p> <p>第14回 事後指導1</p> <p>第15回 事後指導2</p>
<b>評価方法・基準</b>	このコースの評価は、事前・事後指導(20%)、授業観察における姿勢・その方法(40%)、報告書(40%)で評価する。
<b>教材など</b>	各受講生の研究課題に応じて指示する。
<b>備考</b>	

■ LE034

科目名	: 特別演習
担当者	: 英米語学専攻授業担当教員
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期 秋学期
授業目標	: 受講者の修士論文（または特定課題研究成果報告書）のテーマに密接に関連した具体的な研究・調査課題に関して、その分野を専門とする教員の指導のもとに、文献調査やデータ収集・分析を行い、研究・調査報告書をまとめること。
授業内容・方法	: 授業担当者による個別指導。
授業計画	: 授業の進め方は、授業担当者、研究・調査課題によって異なるが、概ね以下の順序で、内容のある報告書を完成させるための指導を行う。 第1回 研究・調査課題の当該分野での位置づけとその意義の確認 第2回 先行研究に関する文献調査、重要文献の詳読と議論 第3回 先行研究に関する文献調査、重要文献の詳読と議論 第4回 先行研究に関する文献調査、重要文献の詳読と議論 第5回 研究課題・対象の絞り込み・具体化、データ収集/調査方法の決定 第6回 研究課題・対象の絞り込み・具体化、データ収集/調査方法の決定 第7回 研究課題・対象の絞り込み・具体化、データ収集/調査方法の決定 第8回 データ収集/調査実施、収集されたデータ/調査結果の分析 第9回 データ収集/調査実施、収集されたデータ/調査結果の分析 第10回 データ収集/調査実施、収集されたデータ/調査結果の分析 第11回 データ収集/調査実施、収集されたデータ/調査結果の分析 第12回 分析結果のまとめ方・報告書執筆指導 第13回 分析結果のまとめ方・報告書執筆指導 第14回 分析結果のまとめ方・報告書執筆指導 第15回 口頭発表、総括
評価方法・基準	: 研究を進めるために設定された課題と口頭発表：50% 研究報告書：50%
教材など	: 必要に応じ、授業担当教員が指示する。
備考	: この科目を受講するためには、以下の要件を満たしていることが必要です： (1) 研究指導者と授業担当者の履修許可を得たうえで、前学期の最終授業日までに「研究計画書」を提出し、外国語研究科会議で受講が承認されていること。 (2) 「研究計画」が、履修者の修士論文（または特定課題研究成果報告書）のテーマと密接に関連したものであること。 (3) 授業担当者の開講科目を少なくとも一科目履修し、その単位を取っていること。 (4) 研究指導と同時に同一教員担当の特別演習は履修できない。

■ LE035・LC031・LL043

科目名	: 研究指導1・2
担当者	: 研究指導教員
週時間数	: 2
単位数	: 4
配当年次	: 2年
開講期間	: 通年
授業目標	: 春学期：修士論文または特定課題研究成果報告書の作成に向けて必要な文献の収集と精査、研究計画の立案等を行う。 秋学期：修士論文または特定課題研究成果報告書の完成に向けて草案の作成、問題点の整理と改善、最終稿の執筆を行う。
授業内容・方法	: 研究指導教員による個別指導。
授業計画	: 春学期：授業の進め方は研究指導教員により異なるが、概ね以下の段階を経て進める。 第1回 基本文献のレビュー 第2回 基本文献のレビュー 第3回 基本文献のレビュー 第4回 研究テーマの設定 第5回 研究テーマの設定 第6回 研究テーマの設定 第7回 研究計画の作成 第8回 研究計画の作成 第9回 研究計画の作成 第10回 データの収集・分析 第11回 データの収集・分析 第12回 データの収集・分析 第13回 最新の文献の研究 第14回 最新の文献の研究 第15回 最新の文献の研究 秋学期：授業の進め方は研究指導教員により異なるが、概ね以下の段階を経て進める。 第1回 草稿の作成 第2回 草稿の作成 第3回 草稿の作成 第4回 問題点の整理と改善 第5回 問題点の整理と改善 第6回 問題点の整理と改善 第7回 草稿の修正 第8回 草稿の修正 第9回 草稿の修正 第10回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第11回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第12回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第13回 口頭試問 第14回 口頭試問 第15回 口頭試問
評価方法・基準	: 修士論文または特定課題研究成果報告書の内容および口頭試問の結果により評価する。
教材など	: 必要に応じ研究指導教員が指示する。
備考	: